

問1 適語句選択

空所1を含む文の後半「(彼[モーガン氏]は)そこ[アルバート大学]で、科学技術を研究していた」から、空所1に入る語句はエの「教授」が最も適切だと判断できます。アの「俳優」、イの「所有者、経営者」、ウの「店員、事務員」はいずれも不適切です。

問2 適語補充(書き換え)

thirty minutes「30分」は「1時間の半分」ということなので、3語で(half)an(hour)と言い換えることができます。hour「時間」の語頭のhは黙字(発音しない文字)なので、発音は[auə]となります。

問3 適語選択

ジャネットの発言の空所3を含む文の後に、「それ[傘]は何て役に立たないのでしょうか!」とあり、モーガン氏とジャネットの二人はその後ずぶ濡れになったことが書かれているので、空所3を含む文は「あなたの傘は穴でいっぱいです!」と判断できるので、イが最も適切です。なお、be full of～は「～で満たされた、いっぱいの」という意味の熟語です。

(例) His heart was full of hope.

「彼の心は希望で^{あふ}れていました。」

問4 適語補充(前置詞)

空所4を含む箇所は「ジャネットは急いでドライヤーで髪を乾かした」という意味になり、「ドライヤーで」は(with)a dryerとなります。このwithは「～で、～を使って」という意味になります。

(例) We usually eat Japanese food with chopsticks.「日本食は通常、箸^{はし}で食べます。」

問5 語句の内容選択

下線部(5)のinventは「発明する」という意味で、「発明」の定義は「今までになかった

タイプの物を新しく作り出すこと」ということなので、アが最も適切です。その他の選択肢の意味はそれぞれ、イ「特別な傘を見つける」、ウ「特別な傘の考えを取り入れる」、エ「特別な傘を探す」となります。

問6 心情把握

(6) 下線部(6)のNobel Prize isn't my dream!

「ノーベル賞は私の夢ではない!」というモーガン氏の発言は、自分のアイデアはノーベル賞を受賞する価値があるということなので、この内容に最も近いのはウと判断できます。

(7) 下線部(7)のYou have a fever, don't you?

「あなたは熱があるんじゃないの?」というジャネットの発言は、雨に濡れたままずっと考え事をしている自分の夫[モーガン氏]が突然、ノーベル賞も夢じゃないといった突拍子^{とつぱようし}もないことを言い出したので、この内容に最も近いのはイと判断できます。

問7 内容説明

下線部(8)I forgot about another button「私はもう1つのボタンのことを忘れた」のanother buttonとは、傘が空を上がる時に押すボタンとは別の地上に降りる時に押すボタンのことです。そのために、モーガン氏は空中に舞い上がったままの状態であることが本文からも読み取れます。この内容を()内に入る形で5字以上10字以内の日本語にまとめます。

正解例 (地上に降りるための) ボタンを傘に取り付けるのを忘れた。(9字)

問8 内容真偽

各英文の意味と本文の内容と一致する[しない]点は次の通りです。

ア.「6月の日曜日の午前に、モーガン氏は自分の大学に仕事で出かけようとしてい

た。」

本文の冒頭に「モーガン氏と妻のジャネットは、6月の日曜日の午前に(自宅の)居間にいて、散歩に出かけるところだった」とあるので、本文の内容と一致しません。なお、was going to～は「～に行くつもりだった[行こうとした]」という意味になります。

イ.「ジャネットはモーガン氏と一緒に散歩に行きたいと言った。」

本文の最初に、ジャネットの「セントラルパークを(一緒に)散歩しましょう。」とあるので、本文の内容と一致します。

ウ.「モーガン氏とジャネットは外出の際に2本の傘を携帯した。」

本文に、ジャネットは、雨は数時間降らないという天気予報を当てにして自分の傘は携帯せず、雨を心配するモーガン氏の傘だけを1本持って公園に行ったことが書かれているので、本文の内容と一致しません。

エ.「モーガン氏は雨の中帰宅すると、すぐに髪の毛を乾かし、服を着替えた。」

本文に、二人がずぶ濡れになって帰宅した時、ジャネットがすぐに濡れた髪の毛を乾かして服を着替えたのに対し、モーガン氏は何もせず黙って考え事をしていたことが書かれているので、本文の内容と一致しません。

オ.「モーガン氏は特別な傘を作るアイデアを思いついたので、アルバート大学の自室に行った。」

本文に、モーガン氏は特別な傘を作るアイデアを思いついて、自宅の仕事部屋に入っていたとあるので、本文の内容と一致しません。

カ.「モーガン氏は、自分のアイデアは素晴

らしいと思っていたが、結局は馬鹿げたミスを犯した。」

本文に、モーガン氏は空中を飛ぶ傘を発明したが、飛んでいる最中にもう1つのボタン、つまり、地上に降りるためのボタンを取り付けるのを忘れてしまうというなんとも愚かな失敗をしてしまったことが書かれているので、本文の内容と一致します。